

コマツ コミュニケーション レポート

KOMATSU COMMUNICATION REPORT

激動する時代、メーカーはどのようにこの変化に挑み、取り組んでいるのか。コマツの製品をお使いのユーザーの方々をレポートしてご紹介いたします。第7回は、コマツサーボプレスHCP3000をご活用いただき、新たな製品加工に挑戦されている埼玉県吉川市のアポロ工業株式会社様にお話をお伺いしました。

Vol. 7

金属プレス加工・精密金型の設計製作
治工具類の設計製作メーカー

アポロ工業株式会社

本社 〒342-0027 埼玉県吉川市三輪野江2405 TEL.0489-81-5156
創業 昭和46年8月 代表取締役 小田英樹
資本金 1,000万円 従業員数 15名



トップに聞く。

『存在価値を高めるために、 つねにチャレンジを続ける』

- 現在メーカーから高い信頼を得られているとお聞きします。
創立当初はどのような状況でしたか。

昭和33年、20才の時に初めて就職した鉄工所が幸いなことにアメリカとの合弁会社でした。

当時の日本というのは工作機械や技術などアメリカから教わったことが結構多いのではないのでしょうか。ここで多くの技術を学び、そして30才の時に独立しました。ちょうど業界自体が大きく変化していった時期を生きたような気がします。

基本的に私は職人ですから、技術が進歩する真っ直中にあることができ、とても良い時代を体験できたと思っています。

- メーカーからの依頼が多いとお聞きします。
その背景にあるものはなんですか。

私どもが提案型の企業だからでしょうか。業界自体は非常に厳しい状況ですが、お客様の所へ出向いていって「何か宿題はないですか、いまコストダウンや品質の面で困っていることはないですか」というと結構悩みが多いんです。

しかしその悩みは当然のことながら難しいものが大半です。それをいかに解決できるかが、我々の存在価値になってくるのではないのでしょうか。



代表取締役 小田 英樹 氏

いまは不況の時代といわれていますが、逆に不況こそ技術を向上させるチャンスだと思っています。競争が激しいから皆が一生懸命に努力する。危機感を持っている企業が、生き残っていくと思います。

- 社名のアポロはどのような理由から命名されたのですか。

ちょうど会社を興そうと考えていた時に、アポロ11号の月面着陸を見まして、なんて人間はすごいんだと思いました。あれほど興奮したことは未だにないです。それでアポロと命名しました。

その後、世の中の技術の目覚ましい発展を見るにつけ、私は人間の知恵には限界がないのではないかと考えているんです。

本当に人間というのは素晴らしいものです。どんな不可能な問題も何とか解決してしまう力を持っています。我々もそんな気持ちで常にチャレンジしていきたいと思っています。



進化はここから生まれる。

現場を捉える。

「いいものを、早く、安く」を目指して、あくなきチャレンジ精神でお客様の要求に挑む。不況こそが技術を向上させるチャンスというポリシーのもと、社員全員が努力して新しいモノづくりに取り組んでいる。

●提案型企业として実際どのようなことを行っているのでしょうか。

今までプレス加工で行っていなかったもの、例えば切削や研削、ロストワックスなどが出来ないかと考えています。

一番コストを下げることができ、量産に最も向いているのがプレス加工であると思っています。

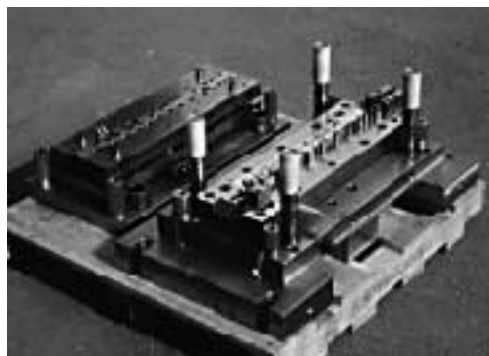
プレスに置き換えられればそれに越したことはない。そのひとつとして今回エッチングで造っていた製品を、プレス加工で行えないかと導入したのがコマツのサーボプレスHCP3000です。

プレス精度が非常に高く、特に常識では精度を出せないような形状まで加工できるという点が気に入って導入しました。

あとはこの機械をどのように活用するかが私たちの今後の課題です。



●金型製造工場



●順送金型

●お客様の要求はどんどん厳しくなってくる状況と思われませんが。

今は「いいものを、早く、安く」が当たり前時代になっています。

またお客様の製品も多様化しており、いままでも考えなくてもよかった新しい分野の要求もできます。

するとどうしても自社の知識では間に合いません。

そのために社員とともに技術センターのセミナーを受けたり、専門家の意見をお聞きしたり、また機械の展示会に足を運ぶなど、常に勉強しています。

とにかく世の中の流れは早いですから、遅れないようにするためにも積極的な行動が必要です。



●今後の活躍が期待されるコマツサーボプレスHCP3000

- お客様のテーマに応えるために行っていることは何ですか。

テーマを与えていただけるのは非常にありがたいことです。

「あそこに頼めばきっと解決してくれるはずだ」と期待していただいているわけですから、とてもうれしいことです。ただし、そのための技術の研鑽は欠かせません。

コマツのサーボプレスHCP3000を導入したのも、お客様へのアプローチのひとつです。従来の機械では思うようにいかなかった精度をサーボプレスなら出すことができます。

また、例えばストロークを途中で止めることができるので、様々なテストが行えます。

その他、金型の痛みが少ないとか、仕上がり精度が高いため検品の回数が少なくて済むなど多くのメリットがあります。

お客様の厳しい要求に応えるためには、新しい技術を備えた機械を導入することも必要です。



●プレス工場

- 難しいテーマほどやりがいがあるということでしょうか。

モノをつくっている会社ですから、どんな難しいテーマでもつねにチャレンジしていかなければなりません。

しかし、これは人間というか日本人の素晴らしい点であると思うのですが、みんなが一緒になって努力するんですね。

どのようにすればこの製品ができるだろうと悩んでいると、今回のように良いタイミングでメーカーが、おやっと思うような機械を開発してくれる。

コマツのサーボプレスHCP3000もたぶん何かしらの要求があって誕生した製品ではないでしょうか。

お客様も悩んでいる、私たちも悩んでいる、するとそれを解決するために全員が努力する。

やはり人間はすごいな、素晴らしいなと実感しています。

ですから何でも不可能なことはなく、チャレンジする価値は大いにあるということです。

金属プレス加工・精密金型の設計製作
治工具類の設計製作メーカー

アポロ工業株式会社

- 生産性向上のために現場で行っていることはなんですか。

若い社員にモノづくりは教えられますが、それ以外は教えられませんので専門的なところで教育してもらおうようにしています。

また提案制度を設けており、採用されると報償金が出ます。

実は当社は軟式野球のチームがありまして結構強いんです。ですから現場のチームワークは良いのではないのでしょうか。

あとはミスと不注意はいけません、チャレンジしての失敗は認めています。許される失敗は必ずノウハウになりますから、恐れずに大いにチャレンジしてほしいと思っています。

- 御社は今後どのように発展されていくのでしょうか。

お客様から多くのテーマをいただき、そのいくつかは解決していますが、出来てしまえばそれはもう当たり前の事になってしまいます。

例え他社ではまだ不可能なことで、自社で出来るということはそのうち当たり前になりますから、自分たちが勝っていると思っはいけないわけです。

特に今の時代は製品開発のサイクルが早いですから、次々チャレンジしていかなければ追いつきません。しかしこのことが発展していく原動力になっていると思います。

不況とはいいいながらもお客様の悩みやテーマは多いですから、要求は必ずあります。

それに応えるのは大変難しいのですが、常にチャレンジしていく企業を目指していきたいと思っています。



製品紹介



■主要仕様

機種	HCP3000	
加圧能力	kN(ton)	800(80)
ストローク長さ	mm	160
最大開き量(デーライト)	mm	430
高速下降・上昇速度	mm/s	150
加工速度	mm/s	~150
スライド寸法(左右×前後)	mm	900×450
ボルス寸法(左右×前後×厚さ)	mm	1210×500×140
サイドオープニング	mm	550
主電動機出力	kW	連続定格 12×2

お問い合わせは

コマツ産機株式会社 鍛圧KBU 企画グループ

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7 アーバンネット南大井ビル

TEL. 03-5561-2692 FAX.03-5561-2877

KT-Net

コマツとお客様を結ぶ
ネットコミュニケーション

KT-Netとは、サーボプレスを活用して革新的なプレス加工を追求されているユーザーの方々の集まりです。皆様の情報発信の場として、是非ご利用ください。また今後もこの誌面でKT-Netのお客様をご紹介させていただきます。ご入会をご希望の方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。